



みずみどり

2022年4月1日 第149号

発行：いたばし水と緑の会事務局

年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会  
<http://mizumidori2.eco.coocan.jp>E-mail : [mizumidori@nifty.com](mailto:mizumidori@nifty.com)

〒174-0063 板橋区前野町 5-31-7 瀬田方 090-1423-9894

# 赤塚公園のカエルたち

## 産卵に集まったカエルは何匹？卵は何個？

アズマヒキガエルが絶滅しかかっているそうです。これはたいへん、赤塚公園にカエル（アズマヒキガエル）が何匹くらいいるか、調べたいと思いました。カエルは夜活動し、草むらや藪のなかにいるので、目に付きません。

早春、気温が上がると冬眠から目覚めて、産卵のために池に集まり、集団で婚活します。そこでヒキガエルが産卵のために集まる池を見に行くことにしました。観察は昼間（午後）です。

今年はいつまでも寒い日が続きましたが、日差しを強く感じはじめた2月27日から池に行ってカエルウォッチング。3月5日トンボ池の奥でクックツと鳴く声が聞こえました。今年始めて出てきたカエルです（写真右）。翌日3月6日、池にカエル5匹が来てバシャバシャと泳いでいました。

それからほぼ毎日、カエルウォッチングを続けました。3月21日、そろそろ産卵は終わりです。カエルたちがいたのは、ため池公園の赤塚トンボ池、大仏下の池、徳丸緑地の池、沖山の池の4箇所です。卵が産み付けられたのは、赤塚トンボ池（4）、大仏下池（2）、沖山の池

（3月月25日現在で数えられないくらい多い）、徳丸緑地池（残存卵見当たらず）です。詳細は、3頁に。



## オタマジャクシを見守って下さいね

卵は黒いツブツブになって沈み、4月にはオタマジャクシになるでしょう。小さなオタマジャクシは6月頃小さな豆ガエルになるまでの2カ月ほどの間、たくさんの敵の中で、生きていきます。前途多難です。オタマジャクシ達の様子を見守ってください。見たことを教えてください。

# 城址の湧き水を見て梅林とバツタ広場と雑木林を観察

3月13日、暖かく梅も満開です。新しい方もいて、赤塚トンボ池だけでなく、城址の湧き水の現状を観察することにしました。

## まずは、赤塚トンボ池から

赤塚トンボ池は城址の隣の山（大仏のある浄蓮寺の山）の下から湧く水をパイプで引いて自然の池（ビオトープ）として活用しています。ここは湧き水と自然をみてもらう場所なのです。

池にはカエル4匹、卵4塊がありました。この日は水が比較的澄んでいて池底の卵が見えてほっとしましたが（いつもは水が濁って卵が見えない）、はじめて見た人に水が汚くいやだ、と言われてしまいました。湧き水というとコンコンと湧く清水のイメージがあります。池の水は普通水道水なので、水が濁った自然の池には違和感があるのでしょうか。難しい問題です。

## 大仏下の湧き水池

崖下から自然に湧く水が直に池の水になっています。卵が2塊？、ありました。3日前にはカエルが4匹いましたが、産卵が終わって山に戻り、もうカエルはいませんでした。

1998年、板橋区が専門家と

会員で掘った素掘り池です。地下水位が高い場所で、掘っている最中に底から水がじわーっと出てきました。2002年ザリガニが放されて水草のない池になりましたが、2006年オタマジャクシ、そして子ガエルが大量に跳ねていたことがありました。

今は渡辺さんが管理しています。



## 不動の滝

不動の滝は東京都の名湧水で地図にも出ています。付近は板橋区の湧水保全地域に指定されています。滝とはいえ「滝口からちよろちよろと水が出ているだけ」。だけど通り過ぎないで。

滝の上の畑はなくなり、住宅が建ち並んでいます。それなのに、どこに水が蓄えられているのか、途切れることなく、湧き水が出ていることに私はいつも感動します。滝口だけでなく、壁全体から湧き水がしみ出しています。崖の木や枝が切れ、むき出しの斜面の地盤が土嚢で保護されていて、写真写りもよくありません。滝の上の土をよく見ると礫が混じっていて、帯水層であることがわかります（地理のお勉強です）。お不動様があり、不動の滝講の方達がお守りしています。富士山や大山に参詣登山するまえに、この滝で身を清めて出発したと案内看板に書かれています。大山は古典落語「大山詣り」の舞台ですね。そういう古い伝統がある滝なのです。

滝壺には、「蟹をとらないで下さい。蟹はお不動様の守り神です 平成24年」という張り紙があります。不動の滝の隣やその並びの崖下の民家にいたサワガニはとうの昔に絶滅しましたが、張り紙は平成24年に滝壺に蟹の生き残りがいたという証拠です。ここは東京です！。ここにサワガニがいたことを知ってほしいとずっと思っています。

## 不動の滝向かいの湧き水

浄蓮寺の山に向かって左側の崖下から水がでていて、地面がじめじめしています。以前ここには大きな湧き水池のある家がありました。山に向かって右側の石垣の下にも水が出ています。石垣は赤塚城址の跡ではなく、赤塚城址の雰囲気に合わせて？公園整備でつくられたものです。崖下の空地に新しい家が建ち、さらに建物ができそうな様子で、崖下の湧き水も見えなくなるでしょう。崖下を左（浄蓮寺）に向かう緑道は、谷間を流れる細流の跡です。

観察会では、ここから城址の山に登り、満開の梅林を通り抜けて、バツタ広場に、ここから山道を降りて、ニリンソウが咲き始めたあかみちを通り、ため池にもどりました。城址では家族連れがシートを広げお弁当、バツタ広場ではカラスノエンドウのあざやかな緑色の葉、崖下ではニワトコの蕾、そしてキチョウが飛んでいました。のどかな春の1日でした。



## 赤塚公園の

# ヒキガエル ウォッチング

赤塚公園でヒキガエルがはじめて現れたのは、赤塚トンボ池です。3月5日に1匹現れ、翌日には5匹が集まり、カエルたちは15日までいました（池に滞在した日数は10日間）。カエルは多いときで6匹、卵は5個でした。

大仏下の池では、3月7日に1匹現れ、3月10日に5匹、卵は2個、13日にはカエルはいなくなりました。池に滞在した日数は6日です。

徳丸緑地池では10日までカエルは0匹、12日には15匹ほど集まっていますが、16日にはいなくなりました。カエルたちは、4、5日間に集中的に多数が集合します。気温が上昇した25日、いないと思った静かな池に3匹がいました。

城址の2つの池と徳丸緑地の池の3つの池にカエルたちが集合したとき、沖山の池は干上がっていて、カエルは1匹もいませんでした。3月18日雨で沖山の池に水が溜りました。他の池でカエルたちが解散して山に帰った後の19日にカエルが多数集合、20日には20匹位。

25日には浅い水たまり一面に卵が広がっていました。

### ヒキガエルウォッチングで気が付いたこと

- ・同じような時期にいっせいに出来たこと
- ・大集合して産卵するとほとんどいなくなってしまうが、遅れてきたのか(?) 2, 3匹が残っていたりする。
- ・それぞれのカエルが集合する池は決っているらしい
- ・産卵に集まったカエルの数は合計50匹位と思われます（昼間のカエル人口です。産卵に関わらないカエルは含まれない）。この数が多いのか少ないのかわかりません。

徳丸緑地の池に 20匹位か

沖山の池に20匹以上

赤塚城址では 赤塚トンボ池に6匹

大仏下の池に 5匹

城址地区のカエルが少ないですね。

カエルたちは夜に産卵しているようですが、準備のために?昼間から集まっています。派手な水音を立てていて見応えがありますが、大騒ぎしているのはわずか数日です。同じ時期にあちこちでカエルが大騒ぎをしていました。

右は、♀のヒキガエルに♂2匹が抱きついていました。放さない、いつまでも（徳丸緑地池）。



## 徳丸緑地池のカエルたちの災難

13日、清水さんが徳丸緑地の池で、卵が岸に引きずり出され岩の上で干上がっていて、池に戻せなかったと言われ、行ってみました。ひどい状態です。



トコロテンのような大量の卵は岸にへばりついていました。前日に掻き出したものでしょう。手でちぎっては、池の中央に投げ込み、またちぎっては投げ込みしました。服は泥だらけ。卵は半分干からびていました。もう手遅れだったかもしれません。

この池には、前日に子ども達が遊びに来ていて、岩陰に集まっていたカエル（5匹いるとか言っていた）を棒でつついたり、別のところにいたカエルをぎゅーっとつかんで、お尻から卵がでてきたので「やめてー」と叫び、手を放してくれましたが・・・。

カエルは子ども達のオモチャです。子どもは残酷ですね。子ども達は自然の中で遊んで、自然を学ぶと言われますが、自然から何を学ぶのでしょうか。

翌日、池の縁に生み付けられた新しい卵がありました。16日には残っていましたが、19日にはなくなっていました。

### 新たな災難も

カエルたちの産卵活動中にカルガモが来て、池底をあさっていました。卵はカルガモの御馳走のひとつです。

この池にはカエルが来ないと思っていたけど、そうではありませんでした。数年前、カエルと大量の卵がありましたが、数日後、卵はすっかりなくなっていました。この池にカルガモがよく来ることやキングヨ、ザリガニがいることは知っていましたが、カエルも短い間、来ていたのですね。池に来た証拠となる卵も消え失せ、オタマジャクシもいなければ、カエルが産卵に来たことすら、わからないままです。



記録を整理していたら、2013年の徳丸緑地の池の写真が出てきました。水が減って干上がり寸前の池（左下の写真）、カエルの卵、子どもが卵を掻き出した形跡、それからオタマジャクシがひしめいている写真、豆ガエルの写真は泥の中に3匹、石の上に1匹です（写真上）。私が豆



ガエルの上陸に立ち会ったのはその一瞬ですが、相当数の豆ガエルが上陸したと思います。ヒキガエルに

とっては、きれいな池よりも、干上がりそうな池の方が安全な気がします。

私は古い写真を見ても、いっぱいいたオタマジャクシや、豆ガエルのことを思い出せませんでした。いつもポケットに入るデジカメを持ち歩いて写真を撮り、いつ、どこで、なにを撮ったかを画像にメモしています。私が忘れてしまっても記録が残っているなんて、デジカメは大変便利な道具です。

## 沖山の池

この池は雨のたまり水です。以前はしみ出し水もあったように思います。3月18日にやっと雨が降って水が溜ると、待ちかねたカエルが集まりました。干上がりそうなヒタヒタの池底一面に卵が広がっています。ここは崖下で（ヘビはいそうですが）悪ガキにもカルガモにも見つからず、雨さえ降れば安全で最高の場所です。カエルになるまでの2カ月幸運を祈って見守りましょう。

写真右は、3月20日、底一面の卵の上にカエル4匹います。左下のカエルはオンプしているのので2匹です。



これで、約1カ月のカエルウォッチングの報告は終わりです。長々と失礼しました。

カエルが嫌いな方には、ごめんなさい。来号にその後を少々紹介します（坂本 郁子）

## 猪鼻昭二さん(徳丸)からのメール 庭のガマガエルの話

お久しぶり！

昨日石原元都知事が亡くなりましたが、小生と1つしか違わないので、身につまされます。

一日おき位に家の近くを3千歩ほど足を引きずるように歩いたり、不動通りの店まで買い物に行ったりしますが、帰路のだから坂が何ともきつくて休み休みです。

実は一昨年12月に大動脈弁をカテーテルで人工弁に入れ替えたが、血液の流れは改善されたかも知れないが、体力の衰えはどうしようもないですね。今年は12月15日に2年目の検診(帝京大)を予約しているのだが、それまで命が保証されているのなら嬉しい。

家のガマガエルですが、庭にスイレンやアヤメを入れる1畳ほどの池を造ったのが縁で産卵に来るようになり(昭和50年頃?)、育ったカエルが産卵に加わり来る数が増え続け、一時は4~50匹も池に溢れ崖線やトンボ池などに放ちに行きましたよ。

10年位前に池が年寄りに危険(妻が落ち込んだ)なので埋め戻したが、庭に棲み付いた2~3匹がスイレン鉢2個を目がけて産卵(卵の紐が外まで垂れる)するので、100個くらいだけ残して埋めてしまいます。年によってはヤゴに食われたりしますが、育ったカエルは庭に這っているのを捕まえてコンポストの中に借り置きし、纏めて崖線の林に放ちます、多い年で30匹位かな。庭にも1, 2匹は残留しているが散見されます。

以上、ほんの細やかな絶滅防止運動のつもりです。

庭でよく見かけたカナヘビやトカゲ、ヤモリなども見なくなりましたね。

もう遠くまでは自由に出歩けません、一刻も早くコロナに退散願いたいですね。



### 環境なんでも見本市に出展

エコポリスセンター主催の見本市は、以前は2日間の展示と工作等がありましたが、今年は2月1日から3月1日までの30日間、パネル展示とクイズラリーがありました。来場者数はわかりませんが、何人かは私たちのパネルを見てくれたと思います。

### 観察記録 (2月~3月25日)

ヒロバフユエダシャク、クビキリギリス、キタキチョウ、エナガ、オオカマキリ卵、オジロアシナガゾウムシ(脱出痕) ヒキガエル、ヒキガエル卵

# 活動のお知らせ

活動の問い合わせ等は事務局 瀬田 090-1423-9894  
坂本 090-4618-1295

## 1 赤塚城址自然観察と手入れ（第2日曜日）（どなたでも参加できます）

赤塚城址周辺は自然が豊かなところです。コロナ禍でもできること・・・生き物達の環境を守る活動を体験しませんか。草や土に触って自然を感じてね。生きものは観察したら自然に戻します。ササ刈り等の作業もやります（カマは用意します）。

（注意）別の公園に観察に出かけることもあるので、前もってご連絡ください。

4月10日（日） 10:00～11:30

5月8日（日） 10:00～11:30

集合場所：板橋美術館そばの赤塚トンボ池前

参加費：無料（保険には加入していません）

もってくるもの：汚れてもよい靴と服装で、軍手、あれば図鑑、虫眼鏡など、

## 2 赤塚ビオトープ（赤塚トンボ池、バッタ広場）の手入れ（第4土曜日）

4月23日（土） 10:00～11:30

5月28日（土） 10:00～11:30

集合場所：板橋美術館そばの赤塚トンボ池前

雨天の場合は中止（または翌日） 問い合わせは：事務局まで

汚れてもよい靴と服装で。軍手（作業手袋）、

## 3 日暮台公園と樹林地の観察 日暮台公園前集合

4月2日（土） 10:00～11:30

5月1日（日） 10:00～11:30

6月5日（日） 10:00～11:30

### ●ビオトープボランティア大歓迎

いたばし水と緑の会は、自然と共存するまちづくりをテーマに、ビオトープ（赤塚トンボ池と赤塚公園バッタ広場）などの観察と手入れ作業、日暮台公園自然樹林地の定点調査などを行っています。観察と手入れを通して、季節の変化や新しい発見があって楽しいですよ。

ホームページ <http://mizumidori2.eco.coocan.jp>

●会員になってくださると板橋の自然情報を中心とした会報「みずみどり」（隔月発行）をお送りします（年会費2000円：振込先は表紙に記載）。

●身近な自然情報やご意見などをお寄せ下さい。